

令和7年度

(令和6年10月～令和7年9月)

環境経営レポート

令和7年12月18日 作成

山崎機工株式会社

目次

項目

目次	2
1. 会社・事業の概要	3～4
2. 環境経営方針	5
3. エコアクション 21 実施体制	6
4. 環境保全活動の実践	7
① 環境への負荷低減目標と実績	7～10
二酸化炭素排出量に関する項目		
総廃棄物排出量の削減		
総排水量の削減		
返品削減（受発注におけるミス防止によるロス削減）		
② 営業拠点別主要指標		11
③ 環境保全活動の経過推移（全社過去5年のグラフ化）		12
5. 環境への負荷低減のための具体的取組と評価		
・次年度の取組内容	13～14
6. 緊急事態への準備、及び対応	14
7. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無	14
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	15

1. 会社・事業の概要

- 事業所名 山崎機工株式会社
代表取締役社長 山崎 均

- 本社所在地 富山県富山市針原中町 503 番地

- 関連事業所 入善営業所 富山県下新川郡入善町道古 59 番地
高岡営業所 富山県高岡市宝来町 824 番地
金沢営業所 石川県白山市小上町 112 番地

- 対象範囲 全組織・全活動を認証・登録の対象範囲とする

- 創業・設立 昭和 23 年 11 月 創業 / 昭和 34 年 12 月 設立

- 資本金 45,000 千円

- 決算期 9 月

- 事業内容 無人化・省力化システムをはじめとする産業機械・工作機械
及び周辺機器類・その他物流システム用品の商社

- 事業所規模

項目		R3年9月期	R4年9月期	R5年9月期	R6年9月期	R7年9月期
売上高 (百万円)	本社	2,323	2,949	2,955	2,282	2,615
	入善	512	598	502	705	590
	高岡	661	942	732	776	543
	金沢	367	303	307	345	339
従業員 (人)	本社	27	27	26	28	27
	入善	7	7	5	5	5
	高岡	6	5	6	6	6
	金沢	4	5	4	4	4
床面積 (㎡)	本社	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998
	入善	364	364	364	364	364
	高岡	168	168	168	168	168
	金沢	161	161	161	161	161

■環境保全関係の最高責任者・環境管理責任者・推進委員及び連絡先

最高責任者	山 崎 均	代表取締役社長
環境管理責任者兼総務推進委員長	栃 谷 茂 実	総務部長
営業本部長	山 崎 和 哉	営業部取締役
営業部推進委員長	板木平 雄二	本社営業部営業部長
業務課推進委員長	板木平 雄二	業務課課長兼務
営業部推進副委員長	奥 井 裕 二	本社営業部マネージャー
営業部推進副委員長	永 森 聡 志	本社営業部グループリーダー
営業部推進副委員長	加 藤 弘 康	本社営業部グループリーダー
営業部推進委員長	藤 木 雄 介	入善営業所所長
営業部推進委員長	湊 裕 也	高岡営業所所長
営業部推進委員長	赤 井 義 紀	金沢営業所所長

T E L 076-451-8001 F A X 076-451-8855

E-mail : soumu@yamazaki-kiko.com

URL : <https://yamazaki-kiko.com>

2. 環境経営方針

〔環境理念〕

山崎機工株式会社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつであることを認識し、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮して行動する。

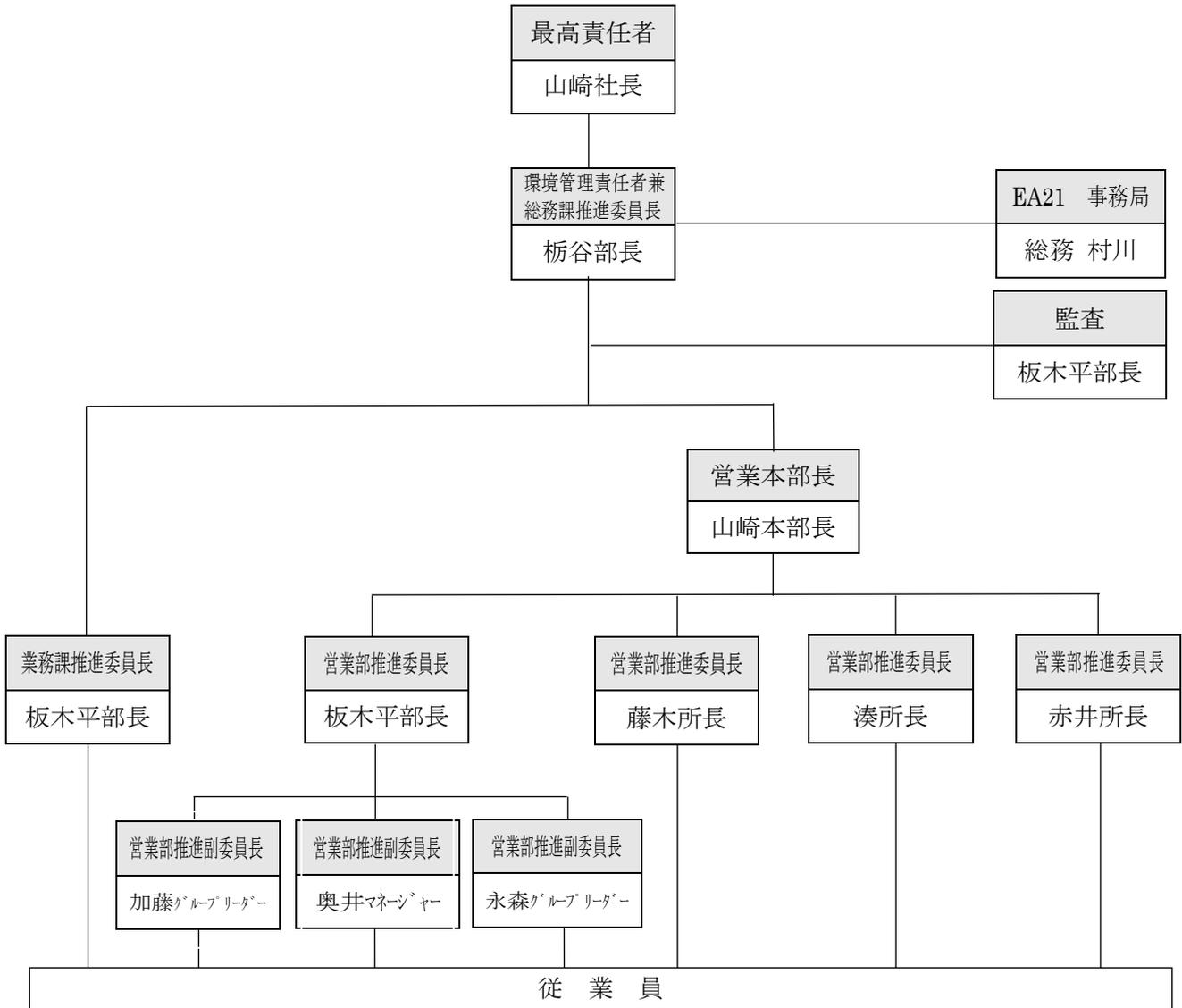
〔環境方針〕

1. 企業活動が環境に与える影響を的確に捉え、可能な範囲で環境目的・目標を定めて、環境保全活動の質の継続的な向上を図る。
2. 環境関連の法律、規制などを遵守し、さらに社内ルールを定めて一層の環境保全に取り組む。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物、排水量の削減に企業活動の全ての領域で取り組む。
4. 環境負荷やコスト面でのロスが発生させてしまう返品について、発生理由を社員ひとり一人が認識・対策して、極小化に取り組む。
5. 環境に関する社会活動により、地域社会に貢献する。
6. 環境教育や社内広報活動等を実施し、従業員の環境基本方針の理解と、環境に関する意識向上を図る。
7. 環境管理の実施状況については環境活動レポートを作成し公開する。

平成 20 年 6 月 28 日 作成
令和 元年 5 月 31 日 改訂
令和 5 年 4 月 3 日 改訂
令和 6 年 4 月 5 日 改訂

山崎機工株式会社
代表取締役社長 山崎 均

3. エコアクション21 実施体制



- 最高責任者 環境マネジメントを行っていく上で、全体的な取組状況について把握・評価し、必要な指示をする。
- 環境管理責任者 エコアクション21の計画や目標を構築・運用し、取り組み状況を最高責任者に報告する。環境活動レポートを取りまとめる。
- 営業本部長 環境管理責任者をサポートし、営業部の4拠点を取りまとめる。
- 推進委員長 営業本部長をサポートし、各部署において環境活動計画を実行する。
- 推進副委員長 推進委員長をサポートし、各推進担当者への指示、アドバイスを行う。
- 従業員 推進副委員長及び運営委員責任者より指示・アドバイスを受け、各項目毎の環境活動計画を推進実行する。

※ EA21 運営委員会は、状況を見ながら都度召集する。
 個別推進項目には、担当者以外に運営委員のスタッフが必ず責任者として入るものとする。

4. 環境保全活動の実践

①環境への負荷低減目標と実績

当期は令和5年9月期の実績数値を基準年としました。

令和5年9月期実績と当期間中に適用した排出係数は、以下の通りとしました。

	電気	灯油	L P G	ガソリン	単位：kg-CO2/kg
適用係数	0.431	2.50	2.99	2.29	

尚、化学物質等の使用はありません。

目標達成の判定基準	◎	達成率 120%以上
	○	達成率 100～120%未満
	△	達成率 80～100%未満
	×	達成率 80%未満

二酸化炭素排出量に関する項目

項目	所課	【基準年】 R5.9期 実績	R7.9期 目標 (基準年比 削減率)	R7.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)			
						【基準年】 R5.9期 実績	R8.9期	R9.9期	R10.9期
電気 使用量	本社	29,216kwh	30,400kwh (+4.1%)	31,437kwh (+7.6%)	△ 96.6%	29,216kwh	29,000kwh (△0.7%)	28,900kwh (△1.1%)	28,800kwh (△1.4%)
	入善	4,830kwh	4,650kwh (△3.7%)	5,686kwh (+17.7%)	×	4,830kwh	5,300kwh (+9.7%)	4,850kwh (+0.4%)	4,800kwh (△0.6%)
	高岡	4,519kwh	4,290kwh (△5.1%)	5,181kwh (+14.6%)	×	4,519kwh	4,290kwh (△5.1%)	4,250kwh (△6.0%)	4,200kwh (△7.1%)
	金沢	3,433kwh	3,390kwh (△1.3%)	3,694kwh (+7.6%)	△ 91.0%	3,433kwh	3,520kwh (+2.5%)	3,400kwh (△1.0%)	3,350kwh (△2.4%)
	全社	41,998kwh	42,730kwh (+1.7%)	45,998kwh (+9.5%)	△ 92.4%	41,998kwh	42,110kwh (+0.3%)	41,400kwh (△1.4%)	41,150kwh (△2.0%)
灯油 使用量	本社	157ℓ	150ℓ (△4.5%)	121ℓ (△22.9%)	○ 119.3%	157ℓ	120ℓ (△23.6%)	115ℓ (△26.8%)	110ℓ (△29.9%)
	入善	205ℓ	150ℓ (△26.8%)	150ℓ (△26.8%)	○ 100.0%	205ℓ	150ℓ (△26.8%)	145ℓ (△29.3%)	140ℓ (△31.7%)
	高岡	206ℓ	150ℓ (△27.2%)	150ℓ (△27.2%)	○ 100.0%	206ℓ	150ℓ (△27.2%)	145ℓ (△29.6%)	140ℓ (△32.0%)
	金沢	340ℓ	155ℓ (△54.4%)	155ℓ (△54.4%)	○ 100.0%	340ℓ	150ℓ (△55.9%)	145ℓ (△57.4%)	140ℓ (△58.8%)
	全社	908ℓ	605ℓ (△33.4%)	576ℓ (△36.6%)	○ 104.8%	908ℓ	570ℓ (△37.2%)	550ℓ (△39.4%)	530ℓ (△41.6%)

項目	所課	【基準年】 R5.9期 実績	R7.9期 目標 (基準年比 削減率)	R7.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)			
						【基準年】 R5.9期 実績	R8.9期	R9.9期	R10.9期
LPG 使用量	本社	12.63kg	12.21kg (△3.3%)	11.18kg (△11.5%)	○ 108.5%	12.64kg	11.59kg (△8.3%)	11.00kg (△13.0%)	10.70kg (△15.3%)
	入善	0.25kg	0.25kg (△0.6%)	0.00kg (△100.0%)	◎ 200.0%	0.25kg	0.00kg (△100.0%)	0.01kg (△96.0%)	0.01kg (△96.0%)
	高岡	2.48kg	2.90kg (+16.9%)	1.08kg (△56.6%)	◎ 162.9%	2.48kg	0.75kg (△70.0%)	0.70kg (△71.8%)	0.65kg (△73.8%)
	金沢	0.25kg	0.23kg (△8.9%)	0.00kg (△100.0%)	◎ 200.0%	0.25kg	0.004kg (△98.3%)	0.004kg (△98.4%)	0.004kg (△98.4%)
	全社	15.61kg	15.59kg (△0.1%)	12.25kg (△21.5%)	◎ 121.4%	15.62kg	12.341kg (△21.0%)	11.714kg (△25.0%)	11.364kg (△27.2%)
ガソリン 使用量	本社	16,144ℓ	15,800ℓ (△2.1%)	16,813ℓ (+4.1%)	△ 93.6%	16,144ℓ	16,000ℓ (△0.9%)	15,950ℓ (△1.2%)	15,900ℓ (△1.5%)
	入善	6,015ℓ	4,910ℓ (△18.4%)	4,566ℓ (△24.1%)	○ 107.0%	6,015ℓ	4,550ℓ (△24.4%)	4,530ℓ (△24.7%)	4,510ℓ (△25.0%)
	高岡	6,040ℓ	5,700ℓ (△5.6%)	4,938ℓ (△18.2%)	○ 113.4%	6,040ℓ	5,280ℓ (△12.6%)	5,250ℓ (△13.1%)	5,220ℓ (△13.6%)
	金沢	3,387ℓ	3,010ℓ (△11.1%)	2,938ℓ (△13.3%)	○ 102.4%	3,387ℓ	2,913ℓ (△14.0%)	2,900ℓ (△14.4%)	2,890ℓ (△14.7%)
	全社	31,585ℓ	29,420ℓ (△6.9%)	29,255ℓ (△7.4%)	○ 100.6%	31,585ℓ	28,743ℓ (△9.0%)	28,630ℓ (△9.4%)	28,520ℓ (△9.7%)

項目	所課	【基準年】 R5.9期 実績	R7.9期 目標 (基準年比 削減率)	R7.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定
二酸化 炭素 排出量	本社	52,021 kg-CO2	49,696kg-CO2 (△4.5%)	52,387kg-CO2 (+0.7%)	△ 94.6%
	入善	16,804 kg-CO2	13,624kg-CO2 (△18.9%)	13,282kg-CO2 (△21.0%)	○ 102.5%
	高岡	16,720 kg-CO2	15,286kg-CO2 (△8.6%)	13,919kg-CO2 (△16.8%)	○ 108.9%
	金沢	10,367 kg-CO2	8,742kg-CO2 (△15.7%)	8,707kg-CO2 (△16.0%)	○ 100.4%
	全社	95,912 kg-CO2	87,348kg-CO2 (△8.9%)	88,295kg-CO2 (△7.9%)	△ 98.9%

総廃棄物排出量の削減

項目	所課	【基準年】 R5.9期 実績	R7.9期 目標 (基準年比 削減率)	R7.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)			
						【基準年】 R5.9期 実績	R8.9期	R9.9期	R10.9期
紙類	本社	3,770.0kg	3,950.0kg (+4.8%)	3,530.0kg (△6.4%)	○ 110.6%	3,770.0kg	3,600.0kg (△4.5%)	3,500.0kg (△7.2%)	3,450.0kg (△8.5%)
	入善	555.0kg	540.0kg (△2.7%)	430.0kg (△22.5%)	◎ 120.4%	555.0kg	540.0kg (△2.7%)	500.0kg (△9.9%)	420.0kg (△24.3%)
	高岡	750.0kg	690.0kg (△8.0%)	660.0kg (△12.0%)	○ 104.3%	750.0kg	710.0kg (△5.3%)	660.0kg (△12.0%)	620.0kg (△17.3%)
	金沢	644.9kg	433.0kg (△32.9%)	474.6kg (△26.4%)	△ 90.4%	644.9kg	476.0kg (△26.2%)	460.0kg (△28.7%)	450.0kg (△30.2%)
	全社	5,719.9kg	5,613.0kg (△1.9%)	5,094.6kg (△10.9%)	○ 109.2%	5,719.9kg	5,326.0kg (△6.9%)	5,120.0kg (△10.5%)	4,940.0kg (△13.6%)
事務系 一般 廃棄物	本社	336.8kg	330.0kg (△2.0%)	220.5kg (△34.5%)	◎ 133.2%	336.8kg	255.0kg (△24.3%)	250.0kg (△25.8%)	245.0kg (△27.3%)
	入善	13.4kg	13.0kg (△3.0%)	9.0kg (△32.8%)	◎ 130.8%	13.4kg	12.0kg (△10.4%)	9.0kg (△32.8%)	8.5kg (△36.6%)
	高岡	41.0kg	38.0kg (△7.3%)	44.6kg (+8.7%)	△ 82.8%	41.0kg	38.0kg (△7.3%)	37.0kg (△9.8%)	36.0kg (△12.2%)
	金沢	21.6kg	15.6kg (△27.8%)	17.8kg (△17.8%)	△ 86.2%	21.6kg	16.9kg (△21.8%)	16.0kg (△25.9%)	15.5kg (△28.2%)
	全社	412.8kg	396.6kg (△3.9%)	291.8kg (△29.3%)	◎ 126.4%	412.8kg	321.9kg (△22.0%)	312.0kg (△24.4%)	305.0kg (△26.1%)
産業 廃棄物	本社	162.9kg	155.0kg (△4.8%)	180.1kg (+10.6%)	△ 83.8%	162.9kg	158.0kg (△3.0%)	155.0kg (△4.8%)	150.0kg (△7.9%)
	入善	11.0kg	8.0kg (△27.3%)	7.7kg (△30.0%)	○ 103.8%	11.0kg	6.8kg (△38.2%)	6.5kg (△40.9%)	6.0kg (△45.5%)
	高岡	104.6kg	28.0kg (△73.2%)	36.5kg (△65.1%)	× 69.6%	104.6kg	30.0kg (△71.3%)	29.5kg (△71.8%)	29.0kg (△72.3%)
	金沢	12.9kg	12.3kg (△4.3%)	10.9kg (△15.3%)	○ 111.5%	12.9kg	10.8kg (△16.0%)	10.0kg (△22.2%)	9.5kg (△26.1%)
	全社	291.4kg	203.3kg (△30.2%)	235.2kg (△19.3%)	△ 84.3%	291.4kg	205.6kg (△29.4%)	201.0kg (△31.0%)	194.5kg (△33.2%)

項目	所課	【基準年】 R5.9期 実績	R7.9期 目標 (基準年比 削減率)	R7.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定
廃棄物 総排出 量	本社	4,269.7kg	4,435.0kg (+3.9%)	3,930.6kg (△7.9%)	○ 111.4%
	入善	579.4kg	561.0kg (△3.2%)	446.7kg (△22.9%)	◎ 120.4%
	高岡	895.6kg	756.0kg (△15.6%)	741.1kg (△17.3%)	○ 102.0%
	金沢	679.4kg	460.9kg (△32.2%)	503.2kg (△25.9%)	△ 90.8%
	全社	6,424.1kg	6,212.9kg (△3.3%)	5,621.6kg (△12.5%)	○ 109.5%

総排水量の削減

項目	所課	【基準年】 R5.9期 実績	R7.9期 目標 (基準年比 削減率)	R7.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)			
						【基準年】 R5.9期 実績	R8.9期	R9.9期	R10.9期
生活用水	本社	112.0m ³	110.0m ³ (△1.8%)	117.0m ³ (+4.5%)	△ 93.6%	112.0m ³	111.0m ³ (△0.9%)	109.0m ³ (△2.7%)	107.0m ³ (△4.5%)
	入善	37.1m ³	27.4m ³ (△26.1%)	17.9m ³ (△51.8%)	◎ 134.7%	37.1m ³	18.0m ³ (△51.5%)	17.5m ³ (△52.8%)	17.0m ³ (△54.2%)
	高岡	9.0m ³	9.6m ³ (+6.7%)	11.6m ³ (+28.9%)	× 79.2%	9.0m ³	9.6m ³ (+6.7%)	9.3m ³ (+3.3%)	9.0m ³ (+0.0%)
	金沢	18.7m ³	15.4m ³ (△17.6%)	85.7m ³ (+358.3%)	× -356.5%	18.7m ³	15.2m ³ (△18.7%)	15.0m ³ (△19.8%)	14.8m ³ (△20.9%)
	全社	176.8m ³	162.4m ³ (△8.1%)	232.2m ³ (+31.3%)	× 57.0%	176.8m ³	153.8m ³ (△13.0%)	150.8m ³ (△14.7%)	147.8m ³ (△16.4%)
融雪装置	本社	2,834.0m ³	設定せず	2,044.0m ³ (△27.9%)	—	2,834.0m ³	設定せず	設定せず	設定せず
	入善	849.8m ³	設定せず	679.1m ³ (△20.1%)	—	849.8m ³	設定せず	設定せず	設定せず
	高岡	526.4m ³	設定せず	507.0m ³ (△3.7%)	—	526.4m ³	設定せず	設定せず	設定せず
	金沢	なし	なし	なし	—	なし	なし	なし	なし
	全社	4,210.2m ³	設定せず	3,230.1m ³ (△23.3%)	—	4,210.2m ³	設定せず	設定せず	設定せず

金沢営業所には融雪設備なし

項目	所課	【基準年】 R5.9期 実績	R7.9期 目標 (基準年比 削減率)	R7.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定
総排水量	本社	2,946.0m ³	—	2,161.0m ³ (△26.6%)	—
	入善	886.9m ³	—	697.0m ³ (△21.4%)	—
	高岡	535.4m ³	—	518.6m ³ (△3.1%)	—
	金沢	18.7m ³	—	85.7m ³ (+358.3%)	—
	全社	4,387.0m ³	—	3,462.3m ³ (△21.1%)	—

返品削減 (受発注時におけるミス防止によるロスの削減)

項目	所課	【基準年】 R5.9期 実績	R7.9期 目標 (基準年比 削減率)	R7.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)			
						【基準年】 R5.9期 実績	R8.9期	R9.9期	R10.9期
返品	本社	224件	205件	282件 (+25.9%)	× 62.4%	224件	216件 (△3.6%)	210件 (△6.3%)	205件 (△8.5%)
	入善	33件	27件	23件 (△30.3%)	○ 114.8%	33件	23件 (△30.3%)	22件 (△33.3%)	21件 (△36.4%)
	高岡	61件	100件	61件 (+0.0%)	◎ 139.0%	61件	57件 (△6.6%)	56件 (△8.2%)	55件 (△9.8%)
	金沢	44件	54件	31件 (△29.5%)	◎ 142.6%	44件	30件 (△31.8%)	29件 (△34.1%)	28件 (△36.4%)
	全社	362件	386件	397件 (+9.7%)	△ 97.2%	362件	326件 (△9.9%)	317件 (△12.4%)	309件 (△14.6%)

これ以外の取組項目として、電話使用料の削減に努め、前年度実績から削減・改善し、一定の効果をあげることができました。また、事務所や机回り、倉庫の整理整頓、営業車の点検・整備の実践、リサイクルとリユースの継続的な推進等、数値には表れないものの社内環境の改善、循環型社会への参加と協力という側面では、当社の企業活動のすべての領域で取り組めたと認識しております。毎週月曜日の全体朝礼での活動状況と数値実績の周知を継続し、従業員の環境に関する意識の向上に努めました。

また、当社では各月度毎に重点商品販売企画として、省人・省力化商材やカーボンニュートラルにつながる工程集約商品を選定し、拡販しました。具体的には産業用ロボットや超硬切削工具、展示会展新商品に加え、6月の熱中症対策義務化の法改正を受け、暑さ対策商品の拡販等を全社をあげて注力しました。その結果、お取引先様各社に最新情報や商品を提供することができ、また、環境負荷低減に一定の効果があつたと考えています。

尚、次年度の取組内容については当年度と同様とします。

②営業拠点別主要指標

令和7年9月期の各営業拠点別主要指標を下記にまとめました。

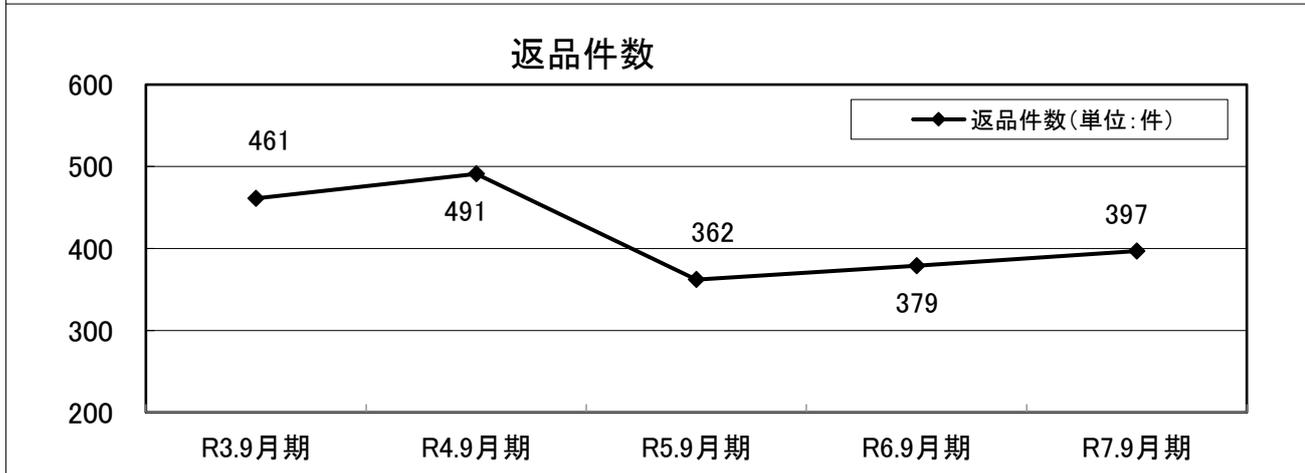
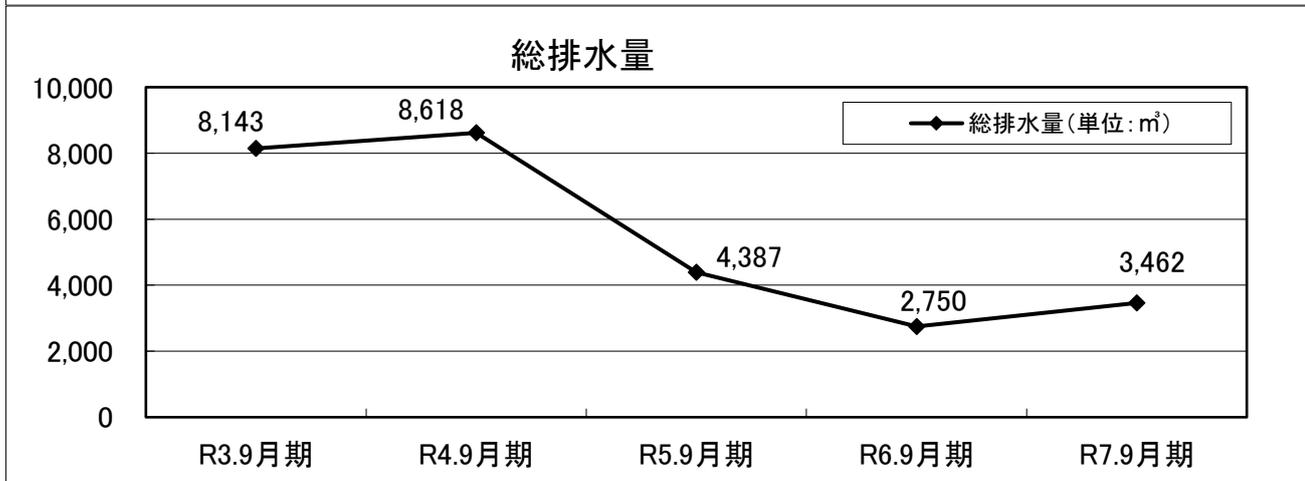
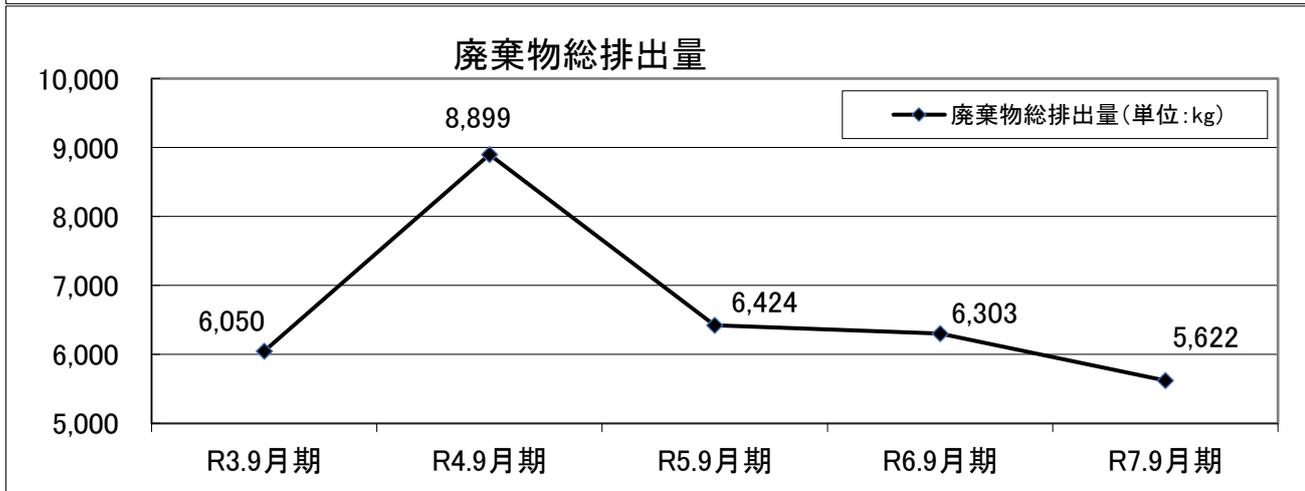
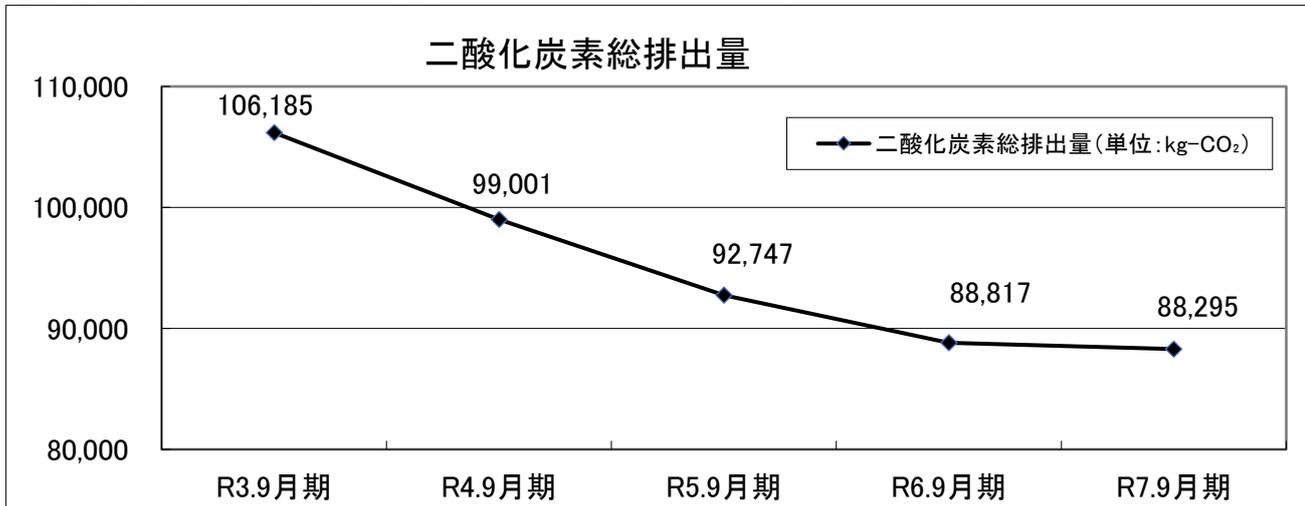
※構成人員数1人あたり 二酸化炭素排出量はR7年の排出係数にて再計算。金沢営業所には融雪装置無し

	年度	二酸化炭素排出量	廃棄物排出量	排水量	返品件数
本社	R 4 年9月期	2,007kg-CO2	164kg	259m ³	10.6件
	R 5 年9月期	1,923kg-CO2	164kg	113m ³	8.6件
	R 6 年9月期	1,810kg-CO2	161kg	83m ³	8.1件
	R 7 年9月期	1,940kg-CO2	146kg	80m ³	10.4件
入善	R 4 年9月期	2,666kg-CO2	366kg	129m ³	6.0件
	R 5 年9月期	3,274kg-CO2	116kg	177m ³	6.6件
	R 6 年9月期	2,635kg-CO2	109kg	52m ³	5.4件
	R 7 年9月期	2,656kg-CO2	89kg	139m ³	4.6件
高岡	R 4 年9月期	3,028kg-CO2	257kg	142m ³	17.0件
	R 5 年9月期	2,717kg-CO2	149kg	89m ³	10.2件
	R 6 年9月期	2,660kg-CO2	135kg	26m ³	15.0件
	R 7 年9月期	2,320kg-CO2	124kg	86m ³	10.2件
金沢	R 4 年9月期	2,204kg-CO2	125kg	3.9m ³	15.4件
	R 5 年9月期	2,522kg-CO2	170kg	4.7m ³	11.0件
	R 6 年9月期	2,251kg-CO2	113kg	3.9m ³	9.0件
	R 7 年9月期	2,177kg-CO2	126kg	21.4m ³	7.8件

※売上高1百万円あたり

	年度	二酸化炭素排出量	廃棄物排出量	排水量	返品件数
本社	R 4 年9月期	18kg-CO2	1.5kg	2.37m ³	0.10件
	R 5 年9月期	17kg-CO2	1.4kg	1.00m ³	0.08件
	R 6 年9月期	22kg-CO2	2.0kg	1.02m ³	0.10件
	R 7 年9月期	20kg-CO2	1.5kg	0.83m ³	0.11件
入善	R 4 年9月期	31kg-CO2	4.3kg	1.52m ³	0.07件
	R 5 年9月期	33kg-CO2	1.2kg	1.77m ³	0.07件
	R 6 年9月期	19kg-CO2	0.8kg	0.37m ³	0.04件
	R 7 年9月期	22kg-CO2	0.8kg	1.18m ³	0.04件
高岡	R 4 年9月期	16kg-CO2	1.4kg	0.76m ³	0.09件
	R 5 年9月期	22kg-CO2	1.2kg	0.73m ³	0.08件
	R 6 年9月期	21kg-CO2	1.0kg	0.20m ³	0.12件
	R 7 年9月期	26kg-CO2	1.4kg	0.95m ³	0.11件
金沢	R 4 年9月期	36kg-CO2	2.1kg	0.06m ³	0.25件
	R 5 年9月期	33kg-CO2	2.2kg	0.06m ³	0.14件
	R 6 年9月期	26kg-CO2	1.3kg	0.05m ³	0.10件
	R 7 年9月期	26kg-CO2	1.5kg	0.25m ³	0.09件

③環境保全活動の経過推移（全社過去5年のグラフ化）



5. 環境への負荷低減のための具体的取組と評価・次年度の取組内容

※次年度の取組内容については、当年度と同様とします。

項目	具体的取組	評価
使用電力量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ エアコン以外の電化製品のこまめな ON・OFF を心がける ・ 不要箇所の消灯（トイレ・商談ルーム・倉庫未使用時） ・ 夏にエアコン使用時はブラインドを下げる ・ エアコン使用時、玄関ドアを閉める ・ エアコン・ヒーターの最低限の運用（設定：夏 28℃、冬 20℃） ・ 夏で屋外の気温が低い時はエアコン OFF（夕方） ・ 照明のこまめな ON・OFF ・ 外出時、無人となる該当エリアの消灯厳守 ・ 昼休み、夕方以降の不要箇所消灯 ・ 自動ドア・倉庫シャッターの最低限の運用 ・ エアコン、業務用ヒーター使用時は扇風機で空気を循環 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全拠点で目標未達で、全社達成率は 92.4%。全拠点が目標を達成できたのは、5 月の 1 ヶ月のみ ・ 入善は目標比 3 月 32.2%、7 月 27.9%と大きく乖離し、通期で 77.7%、前期実績対比でも 23.9%の使用量増となる ・ 視て分かるよう当年と過去 2 年間の月次使用量実績の折れ線グラフを月 1 回配信
灯油使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暖房用として主に使用していたが、エアコン優先にシフト ・ 朝はまず業務用ヒーターのみで事務所内室温を 20℃に上昇させた後は、エアコンのみの自動運転とする ・ 太陽熱の取り入れのため、冬の晴天時はブラインドを下げない ・ 各個人の衣服による調整で暖房対策をする ・ 事務員のみの場合小型ヒーターの局所使用（営業所の場合） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全拠点でのエアコンシフトによる必要最低限の使用により、全拠点で目標達成 ・ 例年通りの給油量を使い切るのではなく、実際の使用量に合わせた給油量への変更をトライする
LPG使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガスコンロ使用時は炎をヤカン外径より内側に設定し蓋をする ・ ヤカンでの湯沸かし時の水量は、必要最低限とする ・ 使用後はガスの元栓を閉めたことを確認する ・ 給湯器の種火は、使用時以外は消す ・ 消し忘れがないか朝礼・昼食後に担当がチェックする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入善と金沢は原則 LPG を使用しない運用にシフトしたことにより、全社で 121.4%の目標達成率となる。 ・ 本社と高岡の 2 拠点だけの最低限の使用となる
ガソリン使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「エコドライブ 10 のススメ」の励行 ・ 夏は、車内を換気してからエアコンを稼働させる ・ 冬の暖房時は原則カーエアコンを使用しないことを徹底 ・ 前月度と走行距離、平均燃費を比較、分析し、異常があれば直ちに対策することを徹底 ・ 重量 20kg 以上、県外向けの荷物は原則ユーザーへ直送する ・ 車内に不要な荷物（カタログなど）を載せたままにしない ・ 持ち出した商品は必ず納品し、当日納品できない商品は持ち出さない ・ 各自効率の良い営業ルートの都度確認と実践 ・ 駐車時には必ずエンジンを停止する ・ 入善営業所で 3 月にガソリンの普通車の廃車に伴い、ハイブリット車に更新した 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本社だけが目標比 93.6%と未達、前年比も 103.1%と増加。全社では目標比 99.4%と達成し、前年比も 97.2% ・ 環境負荷に対する比重が最も高い項目のため、基本的な取組の徹底を継続する ・ 車両別の月次給油量を全社回覧とし、前年度比や他車両との違いを全員で認識する。 ・ 本社だけが 93.6%と目標未達。最適ルートでの運行とエアコンの適正利用を徹底
紙類（廃棄物）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受領した印刷物は、裏紙として再利用することを原則とする ・ メール活用によるペーパーレスの推進 ・ コピー・プリントアウトする際は、内容と用途を確認の上、裏紙利用を判断 ・ 段ボールは極力客先での処理を心がけ、納品時にも活用する ・ カタログを取り寄せる時は社内ストックの有無と数量を確認の上、必要部数のみを取寄せし、速やかに配布する ・ 受領したカタログ・チラシは極力全数ユーザーへ配布するよう心掛ける ・ 過剰梱包があれば、仕入先へ改善を依頼する ・ 直送できるものは、発注時に直送の処理をする ・ 段ボールのリユース先の目標を決めて取り組む ・ 古いカタログは配布元のメーカーや仕入先に返却する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 月に大量の段ボールの廃棄があった金沢だけが 90.4%と目標未達。全社では 109.2%と達成 ・ 客先からのミニマム梱包の要求が強くなってきており、仕入先との協議が必要 ・ 段ボールのリユース拡大とカタログのユーザーへの全数配布を再徹底する ・ 裏紙利用と安易なコピー、プリントアウトをしないことを全員が意識する

項目	具体的取組	評価
事業系一般廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル可能なものが事業系一般廃棄物に混入していないか、分別間違いがないかを確認する 除草に伴う廃棄物は、草に付着した土は落とした後、極力乾燥させてから廃棄する できる限り外部よりゴミを持ち込まないように注意する 	<ul style="list-style-type: none"> 本社で目標比△33.2%、絶対値で△109.5kg削減したことにより、全社で目標達成率126.4%となる。本社での防草工事、草の土落としと乾燥の徹底の効果が大きかった
産業廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> 梱包時の再利用のため、エアークッション、スポンジなど、形状別に管理する やむを得ず発生した廃棄物は担当責任者に連絡し判断を仰ぐ 修理品を引き受ける時は、修理不能と判断された場合、客先へ返却することを客先にも周知徹底する 再利用できないエアークッション類はエアを抜く リユース可能な緩衝材の混入の有無をチェック 	<ul style="list-style-type: none"> 本社（目標達成率83.8%）と高岡（同69.6%）で未達。本社は鉄くずが計画外で20kg発生、高岡は緩衝材のリユース先が無くなった影響 別の徹底と新たな緩衝材のリユース先の開拓と仕入先との減量化の確認を行う
生活用水	<ul style="list-style-type: none"> 社内見廻時に給排水箇所の漏水、蛇口の閉め忘れの有無確認 各自、使用時に蛇口の閉め忘れがないか確認する 無駄な水の利用者には即口頭注意 清掃時や洗車時でのバケツ使用の徹底 水道メーターの定期的なチェックと使用状況の周知 週に一度使用量を確認し節水への意識を高める 手洗い、うがい時は水を流しっぱなしにしない 	<ul style="list-style-type: none"> 金沢で室外の蛇口閉め忘れにより、前年比5.5倍。全社も目標比84.3%、前年比115.7%と増加 金沢は毎週メーターを確認することを取組に追加 入善は漏水対策と管理の徹底で134.7%と大きく目標達成
融雪装置	<ul style="list-style-type: none"> 融雪装置については従来通り最低限の運用を継続 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>冬期間中は天気予報を毎日チェック 降雪時、もしくは降雪が見込まれる時のみ稼動 電源は夜にオン、朝にオフ。センサー感度を過剰にしない 日中は地熱利用による自然融雪を心がける</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な取組を徹底継続し、最低限の使用とする 融雪装置使用前でのノズルのチェック、清掃、調整を徹底する
返品	<ul style="list-style-type: none"> 各自、注文書記入後、発注前に記入漏れ・ミス等ないか✓点などで再確認する（習慣化へ） 受注者は、手配時に入数、単位を必ずチェック 不明点がある場合は、カタログやユーザーに再確認し、自分の判断だけで手配しない 重複発注、数量間違いを無くす TELなどによる口頭発注と書面発注がダブらないよう、営業員とアシスタントの情報共有を徹底 仕入先のミスに対しては担当者から改善を申し入れし、それでも改善されない場合は、業務から指導する 返品する前にユーザーへの買取依頼、他のユーザーへの転売可否を確認 	<ul style="list-style-type: none"> 本社だけが目標比62.4%と大きく未達。総件数は、R5:362件と減少していたが、R6:381件、R7:397件と増加傾向 拠点別では、R5年比で本社だけが増加しているため、本社で発生した返品の要因分析と対策の徹底について、営業だけでなく業務課主導にて対応する 当方ミス、ユーザーミスの件数減に注力する

6. 緊急事態への準備、及び対応

「安否確認システム（スマホ版）」を全社員を対象に2024年4月に導入し、3月29日（土）の全員参加の全体会議終了後に、安否確認テストを実施した。発信後20分以内に参加者全員から応答があったことを確認した。今後も全体会議終了後に実施することを計画する。

7. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

当社に適用される環境関連法規については、環境基本法、地球温暖化対策の推進に関する法律、大気汚染防止法、浄化槽法、土壌汚染対策法、廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法、資源有効利用促進法、容器包装リサイクル法、家電リサイクル法、グリーン購入法、自動車リサイクル法、消防法や各市町村火災予防条例、フロン排出抑制法について、順守状況を検証・確認した結果、取組期間中、違反・訴訟等はありませんでした。尚、過去5年間にも違反等はなく、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

当期は、中国での不動産不況による経済の停滞に底打ちとなった直後、トランプ関税の劇風に振り回された経済状況の中、当社売上高は約 40.9 億円と微減となりました。

EA21 の活動状況は、マンネリ化が散見しましたが、年度単位での意見交換会を実施し、日常活動の中での活動意識は維持されていたと思います。

その結果、当該年度の CO₂ 総排出量は前年比▲0.6%と僅かな減少にとどまったものの、廃棄物総排出量では▲10.8%と大きく削減することが出来ました。一方、書類のプリントアウトの可否・枚数に加え裏紙再利用など、IT ツールの有効活用だけではなく各個人の環境意識レベルを一層高めていくことが必要であると感じられました。また返品件数は、残念ながら 18 件の増加となり中期的に見ても一進一退を推移しています。返品は、百害あって一利なしを十分認識し発生原因の分析を徹底し改善に努めて参ります。

令和 7 年 12 月

山崎機工株式会社 代表取締役社長 山崎 均